

平成28年度 カラカス日本人学校経営方針

1 はじめに

カラカス日本人学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに新学習指導要領に示すところに従い、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童生徒の心身の発達の段階や特性を十分考慮して、海外にあるという特性を活かしながら適切な教育課程を編成し、掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

教育活動を進めるに当たっては、児童生徒に「生きる力」をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童生徒の発達段階を考慮して、児童生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連絡を図りながら、児童生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

また、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成しなければならない。

- 在外教育施設として適切な教育課程の編成
- 児童生徒に「生きる力」をはぐくむ
- 特色ある教育活動を展開する
- 「開かれた学校」を創造する
- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる
- 思考力、判断力、表現力をはぐくむ
- 主体的に学習に取り組む態度を養う
- 個性を生かす教育の充実に努める
- 読書活動の充実に努める
- 言語活動の充実に努める
- 家庭学習の習慣を確立させる
- 国際理解教育を推進する

次に、私が大切にしたいいくつかのことを以下に示す。

- 1 「はじめに子どもありき」 この考え方を常に持っていたい。目の前にいる子どもから出発する教育、目の前にいる子どもの成長を第一に考える学校、教師でありたい。
- 2 「学校は地域のセンターである」 センターとは中心、核である。学校が地域に支えられ存在するために、地域に貢献する学校、教師でなくてはならない。
- 3 「学校はみんなの『学校』でなければならない」 学校は子どもだけが成長する場所ではない。子ども、保護者、邦人、日系人、ベネズエラ人、そして、教師が成長する場所ではない。
- 4 「学校の力は組織力（チーム力）」 学校の力はチーム力である。互いが互いを時には補い合い、助け合い、高め合い、時には批判し合い、成長していく。大人の集団として、プロの集団として、子どもたちに胸張れるチームワークを一番に考える学校でありたい。

5 「開かれた学校の創造」 人、もの、情報がオープンな学校、双方向に自由な学校にこそ、豊かな心が育ち、個性豊かな子ども、教師が育つと考える。

6 極小規模校の本校にとって、去年と同じことの繰り返しや創意工夫のなさは、「はじめに子どもありき」の精神とかけ離れた、教育の怠慢、停滞である。教育の「不易」と「流行」お常に考え、常に創意工夫する教師、学校でありたい。そのために、校務分掌も変えていく。

《教職員に期待したいこと》

- 児童生徒の安全・健康・成長を第一に考える。
- 児童生徒と共に活動を行い、共に汗と涙を流し共感できる。
- 一人一人の良さを見つけ、ほめて伸ばす。児童生徒の自主性、主体性を育てるため、待つ育てる。
- 児童生徒や保護者の要望に耳を傾け、児童生徒や保護者の目線・立場で見て想像し、考える。
- 児童生徒がわかる喜びを味わい、やる気が起きるように指導を工夫する。
- 去年と同じではなく、常に新しいことに挑戦する心を持ち、創意工夫する。(切磋琢磨する教師集団、実行力・行動力のある教師集団でありたい)

2 教育理念

「一人一人の資質・能力を伸ばし、広く国際社会に貢献できる人間の育成をめざす」

3 本校の教育目標

「豊かな知恵と広い心と大きな夢をもち、確かに実践できる子どもの育成」

4 めざす児童生徒の姿

丈夫な**カ**だをもち、**カ**しこく、**ス**なおな **カラカス**の子

(1) よく考える子

- ・学習に意欲的に取り組む
- ・筋道を立てて考え、判断する
- ・創意工夫する

(2) 思いやりのある子

- ・相手の立場を考えて行動する
- ・みんなと協力する
- ・だれとでも仲良くできる

(3) 進んでやりぬく子

- ・めあてを立てて挑戦する
- ・最後までやり抜く
- ・進んでコミュニケーションを図ろうとする

(4) 強くたくましい子

- ・進んで運動に取り組む
- ・健康や安全、生命を大切にする
- ・きちんと集団行動する

(5) 日本もベネズエラも良く知る子

- ・日本の文化を理解し、良さを紹介する
- ・ベネズエラの良さを知り、理解する
- ・ベネズエラの自然や文化、歴史を学ぶ

5 本年度の重点目標

「世界一楽しい学校の創造」(第三章)(開かれた学校、特色ある学校の創造)

6 本年度の経営方針

今年度は一昨年度、昨年度と同様に、児童生徒数は1975年創立以来最低の6名でのスタートとなる。この人数は、平成28年3月時点で、「世界で二番目に児童生徒数の少ない日本人学校」(最小はカラチ日本人学校)であることを示している。人数が多かろうが少なかろうが、私たち教師、学校の教育にかける情熱に変わりはない。いや、むしろ少ない人数だからこそ、最高の教育を、最高の情熱を傾けたいと考える。特に、今年度は二年ぶり新1年生が入学してくる年である。新入生や保護者が学校に期待するものは大きく、このことは学校規模とは全く関係ない。日本と地球の反対側のベネズエラで結ばれた「絆(きずな)」を大切にしたいと考える。「世界一楽しい学校」とは一体どういうことか、何を指すことなのか。それは、全ての児童の口から「カラカス日本人学校が楽しい」「先生がやさしい」「勉強が楽しい」「みんなと遊ぶのが好き」…そして、「私の学校は世界一楽しい」といった言葉が聞けるような学校経営、学級経営を行うということである。そのためのハードルは決して低くない。6人の児童の個性を大切に、個に応じた教育活動を展開しなければそれは達成できない。また、ひとりひとりに堂々と人前でも大きな声で話せる表現力をつけなければならない。「5人の前で堂々と話せる子は、10人の前で、50人の前で堂々と話せる」と信じているし、そういう力を全ての児童につけてやりたいと考える。人前で堂々と話せる力(プレゼン力)は、まちがいでなく「生きる力」であり、これからの世界に通用する国際性でもある。

また、学校にあっては、「開かれた学校」「特色ある学校」を創造しなければならない。「開かれた学校」人、もの、情報等が、開かれた学校は、活気があり、夢があり、「行ってよかった学校」であり、「行かせてよかった学校」である。多くの社会人講師が学校を訪れ授業をし、新しい教材・教具・図書が入り、掲示物がどんどん新しく変わり、学校の様子がホームページや「学校だより」「学部だより」等で生き生きと広く知らされる学校は、大変魅力的な学校、潑刺とした学校である。また、教員ひとりひとりが創意工夫を凝らし、昨年度とはまた違ったアイデアが生まれる学校は、マンネリとはほど遠い「特色ある学校」「魅力ある学校」である。

そのためには、ひとりひとりの教師が自立し、互いに高め合う教師集団でなければならない。教師が生き生きとした学校、やる気と創意工夫にあふれた学校は、児童にも必然、やる気や主体性を生み出すことにつながる。「楽しさ」は、馬鹿騒ぎではない。「楽しさ」は偶発的、一時的なものではない。知的好奇心をくすぐる学習の楽しさであり、心から居心地がいいと思える仲間との時間の楽しさであ

り、やりきった達成感、成功感から得る楽しさである。そんな楽しさは、自然に生まれるものではない。知らない間にできることではない。教育という「科学」に携わる教師だからこそ、計画→実践→評価→改善の科学的なサイクルの中で、目標達成のために全身全霊をかけてこそ、達成できる崇高な目標である。6人の児童を心身ともに成長させることが私たちプロ集団の仕事であり、使命（ミッション）である。

「世界一楽しい学校」を目指して、今年一年、「はじめに子どもありき」の姿勢で組織をあげて頑張ろう。私たちの崇高なミッションを具現化しよう。

《教職員に期待したいこと》

- 笑顔あふれる楽しいこと、魅力ある新しい取組がいっぱいある、ワクワクする学校
- 児童生徒、保護者、教師が成長できる、学校らしい学校
- 開かれた学校、特色ある学校、魅力ある学校 美しい学校

7 今年度特に行う内容（傍線はキーワード・キーセンテンス）

- (1) 児童生徒ひとりひとりの学習状況を教員が共有し、個に応じた教育を実践し、ひとりひとりの学力を伸ばす。（個に応じた課題提示、個に応じた指導方法を積極的に行う）
- (2) ひとりひとりに確かな表現力（特に発表力）をつけ、学力とともに自信と誇りをはぐくむ。（プレゼンの機会を多く持ち、堂々と発表できる力を全ての児童につける）
- (3) 児童生徒数を増やす取組を積極的に行う。（情報公開、体験入学、企業・日系人への働きかけ、文科省への働きかけ等創意工夫を凝らし、熱意をもってあたる）
- (4) 日本の文化や行事を体験する場を学級活動等を活用して積極的に行う。（外部講師の招聘も行う）
- (5) ベネズエラの人とのふれあいを通してベネズエラを体験的に理解する場を設ける。（スペイン語学習、現地校交流、校外学習、宿泊学習、外部講師の招聘 現地従業員の活用 等）
- (6) 社会人講師を積極的に招聘し、学習の楽しさ、人とのふれあいを体感させる。
- (7) 教員の研修・研究を充実させ、教師力、学校力をさらに高める。（会議、研究・研修計画の作成と実行 教師がベネズエラを深く理解し好きになることなく、児童生徒にベネズエラを好きにならせることはできない）
- (8) 「授業は教師の命である」 授業研究会を積極的に行い、ひとりひとりの授業力を高めていく。
- (9) 言語活動（読み・書き・聞く活動）、読書活動（「読書貯金」活動、学級文庫活動）の充実に全教員が努める。
- (10) 教員の創意工夫（アイデア）や児童の創意工夫（アイデア）を大切にした学校運営、学級経営を行う。（新しいことにチャレンジしよう クラブ活動、全校道徳等）

8 例年通り行う内容（傍線はキーワード・キーセンテンス）

- (1) 基礎基本の定着と学ぶ意欲を育む「学習指導」
 - ・ 児童生徒一人一人の個人差に応じた、きめ細かな指導と基礎基本の確実な習得を図る学習指導の展開。
 - ・ 教師一人一人が力量を高め、児童生徒がわかる喜びを味わい、やる気が起きる授業づくり。

- ・ 正しく、美しい日本語による教育の充実。

(2) **豊かな心を育む「道徳教育」**

- ・ 道徳の時間を要（かなめ）とし、全教育活動を通して行う道徳教育の充実。
- ・ 道徳的な心情や判断力、態度を育てる道徳の時間の実践。（全校道徳の実施）
- ・ 児童生徒と教師の信頼関係を深め、ボランティア活動や体験活動を通して内面に根ざした道徳性の育成。

(3) **自主的実践的態度を育む「特別活動」**

- ・ 児童生徒の自主性を高め、成功感・成就感の持てる行事の創意工夫。
- ・ クラブ・委員会活動の活性化（児童生徒主体の企画・運営・実践）による自主性と表現力の育成。
- ・ 好ましい人間関係を学び、「心の居場所」としての学校・学級づくり。
- ・ 所属感や連帯感を深めつつ自主的、実践的な態度を育てる学校行事の工夫。
- ・ 学級活動を計画的に行い、児童生徒の自主性、主体性、表現力を育てる。

(4) **広い視野を育て、夢を育む「総合的な学習」**

- ・ 日本文化の理解とベネズエラの理解。（現地理解教育）
- ・ 情報処理能力の育成。（情報教育の充実、パソコンの活用）
- ・ 外国語の習得と会話力の育成。

(5) **望ましい人間関係の育成を図る「生徒指導」**

- ・ 生涯学習社会での人との関わり方と社会人としての基本的な生活習慣の育成。
- ・ 自立や自律の心、他人を思いやる心の育成。
- ・ 生徒指導の機能を全教育活動に活かし、一人一人に寄り添う生徒指導の実践（受容と共感を基盤とした生徒指導）。
- ・ 教職員の共通理解と共通歩調に基づいた具体的な生徒指導の実施。

(6) **生命を大切にする「健康・安全教育」**

- ・ 進んで運動に親しみ、生命を大切にする保健・安全指導。（性教育）
- ・ 学校が安全で安心な場所になるために、校内外における不審者対策の徹底（危機管理意識の高揚と訓練の実施）。
- ・ 学校安全計画の見直し、定期的な安全点検の実施、職員研修の実施。

(7) **夢を持ち、夢の実現に迫る「進路指導」「キャリア教育」**

- ・ 発達段階に応じ、児童生徒一人一人の生き方を大切にする進路指導。
- ・ 進路指導の充実に務め、学年に応じた進路情報の活用。
- ・ 職業に対する理解を深めるとともに、自己理解の援助と夢の醸成。（キャリア教育、外部講師）
- ・ 実用英語検定、スペイン語検定の実施。

(8) **創意工夫に満ちた美しい「学習環境」「学校環境」**

- ・ 教室、廊下、花壇、飼育舎等の整備と行き届いた清掃による環境整備の更なる充実。
- ・ P T A等の協力を得た環境整備。
- ・ 日常の学習成果の掲示、学級文庫の充実。

(9) **開かれた学校をめざした保護者・邦人社会との連携**

- ・ 理事会や二水会、日系人会、P T A、カトレア会等との連携。

- ・ 学部だより、学校だよりやホームページによる学校の様子の積極的な広報活動。

(10) 職能向上のための「職員研修」

- ・ 海外にある日本人学校ならではの職員研修の企画。
- ・ 教職員の修養となる研修の実施。
- ・ 会議・研究・研修計画の作成と運用。

9 「開かれた学校の創造」

～海外にある日本人学校の使命（ミッション）は「開かれた学校」「特色ある学校」を創造すること～

本校は41年という長い歴史の中で、常に保護者だけでなく、邦人企業（二水会）、日本人（日系人会）、ベネズエラの方々に支えられて存在してきたことを忘れてはならない。

1 学校を開く（治安状況を鑑み、危機管理に十分な配慮をして取り組む）

(1) 授業を開く（毎日がフリー参観のつもりで授業に臨みたい）

- ・ 保護者、邦人、日系人、現地の方々に積極的に学校に来ていただく（フリー参観の実施、学校行事の公開）⇒HP、学校だより、学部だより、メールで広報
- ・ 他の学校の児童生徒にも来ていただく（フリー参観の実施、学校行事の公開、体験入学の実施）⇒HP、学校だより、学部だより、メールで広報

(2) 財産を開く（学校の財産は、邦人社会共有の財産である）

- ・ 運動場、体育館、教室、図書室等、可能な限り社会に開く
運動場の貸し出し、学校施設の貸し出し、学校図書の貸し出し、学校備品の貸し出し、人材の貸し出し
- ・ 日系人会館（日本語教室、日本語講座等）に図書を貸し出す（架け橋文庫）
※ 学校図書の貸し出し フリー参観や長期休業中に貸し出す

(3) 情報を開く（学校のありのままの姿を知らせる）

- ・ ホームページの定期的更新、学校だより、学部だより等の積極的公開
- ・ メール、連絡網の活用

(4) 社会に開く（学校を社会から孤立させてはならない）

- ・ 社会人講師の積極的活用（保護者、二水会、理事会、日系人会、JICA、大使館等、専門的な講師を招聘する できればボランティア講師として）
- ・ 体験的な学習の推進（社会人講師と共に体験的な学習を行う 例：ベネズエラ料理を作る ベネズエラの遊びをする ベネズエラのダンスをする、農業体験をする、楽器演奏をするなど）
- ・ スペイン語検定、英語検定の実施（学校を宣伝するチャンス）

(5) 世界に開く（子どもたちをよりグローバルに育てるために）

- ・ 現地校との交流（小さな集団で定期的・継続的に。作品での交流。行事への招待）
- ・ 日本との交流（できる範囲で、作品募集に応募する形での交流をする）
- ・ 児童生徒がホームページのページを作る（児童生徒のページのコーナーを作る）

- ・和太鼓の発表の機会を持つ

2 学校から出る（治安状況を鑑み、安全第一で取り組む。教育課程との関連で取り組む）

- (1) 校外学習の推進（本やインターネットに頼りきらず、本物に触れる機会をできる限り持つ 例：工場見学、博物館見学、商店見学、公共の施設見学、パルケ見学等）
- (2) 体験的な学習の推進（少人数だからできる体験的な学習を積極的に推進する）
- (3) 教職員研修の実施（教職員研修を子どもたちの教育に還元する。教職員がベネズエラを好きになることがまず大切。教職員の国際性が問われている）

3 学校生活を豊かにする・児童生徒を増やす（結果でなく、過程を重視する。結果はついてくると信じて… 「攻めの教育」「具体性・実行力のある教育」）

- (1) 体験入学の実施（体験であれ、多くの子どもたちとのふれあいを創る）
- (2) 二水会や理事会での宣伝（学校から情報、アイデアを提案していく。「攻めの教育」の推進）
- (3) ホームページ、学校だより、学部だより等での啓発（学校のようにすをできる限り広く知らせる）
- (4) 創立 40 周年の取り組みを 41 年目の実践に活かし、さらに絆を広げ、深める（創立 40 周年でつなごうとした絆を大切に、さらに広げていく）
- (5) 学校行事を開く（楽しく、ためになる学校行事を計画し、開催する）
- (6) 学校生活を楽しく、豊かな毎日にする（教職員の創意工夫、アイデア溢れる取組を行う）

平成 26 年度…修学旅行の参加学年の拡大、マリア校交流学习回数増、エミール校との交流学习開始、校外学習の回数増、音楽鑑賞会の回数増、創意あふれる全校学活（全校集会）の実施、ラ・ブリッサの改修、ウサギの飼育、観察池の設置（グッピー飼育）、高学年用鉄棒設置、社会人講師招聘、樹木名札設置、ホームページ大幅改訂、従業員の教育活動への活用、渡辺俊介投手来校など

平成 27 年度…平成 26 年度の上にさらに… 創立 40 周年記念事業の実施、記念植樹、タイムカプセル、校舎内外の改修、動物飼育拡大、バスケットコート改修、図書室改修、学級文庫設置、読書貯金通帳の取組、ノートパソコン購入、エル・システム来演、ピースボートとの交流、文芸作品コンクール参加、マリア校交流両校保護者参加など

平成 28 年度…平成 27 年度の上にさらに…。クラブ活動の実施、全校道徳の実施、社会人講師招聘、遊び塾の取組、お花見昼食等昼食時間の工夫、朝読書（「読書年間」の取組）など

- (7) 教育相談活動、進路相談活動の実施（教師としての専門性を社会に還元する）
- (8) 教育講演会、教育懇談会の実施（教育の専門家として語る。また講師を招聘する）
- (9) 教職員の創意工夫（せっかくの在外教育施設、任期の中で大きく成長しよう）
- (10) 関係団体に積極的に働きかけ、児童生徒数確保を今年度の最大の獲得目標とする。